

## 【書評・紹介】

## 荒山 千恵 著『音の考古学—楽器の源流を探る』

(札幌, 北海道大学出版会, 2014年2月, A5判, viii+256頁, 6000円+税)

荒山 千恵

本書は、日本列島において遺跡から出土した音響発生器具（楽器、音具）を対象として、人類史における音文化の考古学的研究について記したものである。著者の博士論文をもとに加筆改変のうえ、その後の研究成果を加えてまとめたものであり、『北海道民族学』に掲載された研究ノートの成果も含まれている（荒山 2008、2009、2011、2012）。

過去の音と人との関わりを明らかにしようとする「音の考古学（音楽考古学）」は、音楽学と考古学を基礎とした学際的研究により成り立つものである。本書は考古資料を対象とした基礎研究を中心とするが、考古学的検討とともに音楽史学・民族音楽学・音響学・図像学・技術史など分野を超えた議論と検討方法を必要としている。

以下に、本書の構成および各章の主旨、本書の特徴について述べる。

表紙画像

## 1. 構成

はじめに

序章 考古学からみた「音」の世界

第1章 研究史と研究方法—過去の音文化をどのように捉えるか

1. 音文化の考古学的アプローチ
2. 研究史—日本列島を対象とした古墳時代以前の音文化に関する先行研究
3. 研究史からみた日本の音楽学・考古学研究の現状と問題
4. 国際的な研究動向
5. 検討方法

第2章 気鳴系音響発生器具の検討—埴（ケン）形土製品について

1. 埴形土製品とは
2. 分析
3. 埴形土製品の発音機能と原型の検討
4. まとめ

第3章 打鳴系音響発生器具の検討—小型青銅製ベルについて

1. 小型青銅製ベルとは
2. 分析
3. 考察
4. まとめ

第4章 絃鳴系音響発生器具の検討—篋形・琴形木製品について

1. 篋形・琴形木製品とは
2. 篋形・琴形木製品の類型設定と編年的整理
3. 篋形木製品
4. 筑形木製品
5. まとめ

第5章 音響発生器具の復元的検討—出土「琴」を対象として

1. 問題提起と検討方法
2. 類似する箏琴類との比較
3. 弥生・古墳時代における「琴」の特徴
4. 製作技術の復元的検討
5. 使用方法の推定
6. まとめ

第6章 音の人類史—まとめと課題

## 2. 主旨

第1章では、日本列島における原始・古代を対象とした音楽学・考古学双方の先行研究について概観し、本研究の現状と問題の所在を確認した。また、本書の検討方法として資料を選定するための分類方法について提示した。第2章から第4章までは、規格性のある音響発生器具の候補となる考古資料を対象とした基礎研究をおこなった。第2章は陶埴（とうけん）と呼ばれる土笛との類似が考えられながら発音機能が問題とされてきた埴形土製品、第3章は金属音を発する小型青銅製ベル（小銅鐸）、第4章は絃鳴系の候補となる篋形木製品（別名「縄文琴」とも呼ばれる）・櫛歯状の突起をもつ「琴（コト）」・棒状の筑形木製品を対象に、それぞれの課題について検討した。第5章では、弥生・古墳時代における「琴」の製作・使用・音響に関わる復元的研究について述べた。実験考古学的考察による製作技術や全体構造の復元、実寸大に復元した「琴」を用いて弾琴埴輪や和琴との比較のもとにおこなった絃の固定方法や使用方法の検討結果を提示した。第6章では、日本列島における弥生・古墳時代の音と人との関わりを、各章の個別検討の成果にもとづき三つの画期に分けて整理し、本書のまとめと課題を提示した。

## 3. 本書の特徴

本書では、対象とする資料を可能な限り網羅的に集成し、それらのデータを付図や付表としてまとめ、掲載した。分析や考察にあたっては、全国各地に保管されているこれらの資料について継続的に資料調査を重ね、おこなってきた。それでも、著者は本書で紹介した資料すべてを実見できたわけではなく、今後も持続的な資料集成と研究が必要である。

本研究はマイナーな研究分野であり、その類書は数少ない。考古資料にみる音響発生器具の類例は、毎年のように新たな出土例が増加しており、発掘調査報告における考察、論考や研究会による資料紹介などを通して議論や研究が進められてきた。一方、新たな資料が蓄積されていく中で、「音の考古学」として関連諸分野が共有すべき議論と課題がまとめられる機会は極めて少なかった。その一研究として、日本列島において規格性をもって製作・使用されるようになる音響発生器具の歴史的状況を「音の文化制度化」という観点から照らし、弥生・古墳時代の音文化を中心とした基礎研究をまとめる機会に恵まれたことには意義があると考えている。本書が、「音の考古学」という調査研究分野に広く関心をもたれる契機となれば幸いである。

最後に、北海道民族学会に参加させていただき、本研究に関わる多くのご教示やご助言を賜りましたことを、心より深く感謝申し上げます。

## 参考文献

荒山千恵

- 2008 「人類史における「音」の文化制度化の研究—日本列島出土の音響発生器具を対象にして」 『北海道民族学』4, 北海道民族学会 44-52頁.
- 2009 「国際音楽考古学会（ISGMA）第6回シンポジウムと「音楽考古学」—日本列島から出土した音響発生器具の考古学的研究の発表を通して」 『北海道民族学』5, 北海道民族学会 15-24頁.
- 2011 「国際音楽考古学会（ISGMA）第7回シンポジウムと「音楽考古学」—日本列島から出土した音響発生器具の考古学的研究の発表を通して（2）」 『北海道民族学』7, 北海道

- 民族学会 37-47 頁.  
2012 「弥生・古墳文化における「琴」と儀礼—日本列島から出土した「琴」に基づいて」  
『北海道民族学』8, 北海道民族学会 35-43 頁.  
(あらやま・ちえ/いしかり砂丘の風資料館)